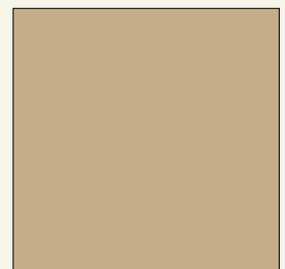
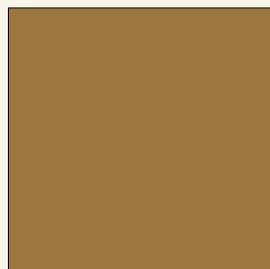
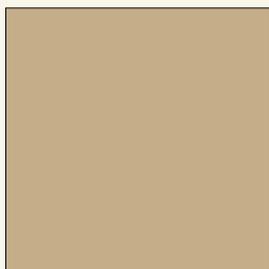
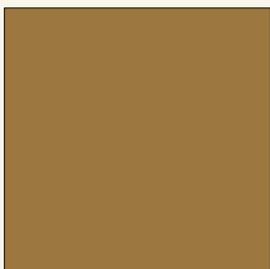
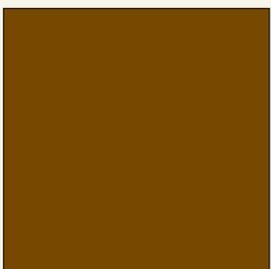
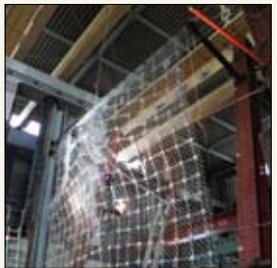
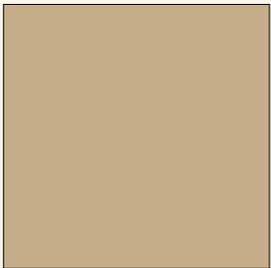
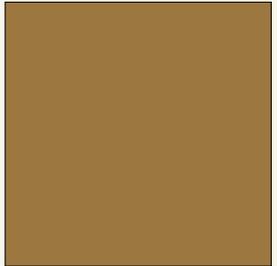
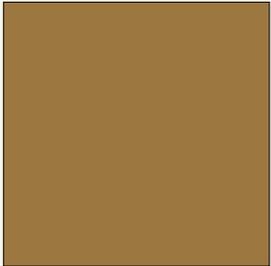
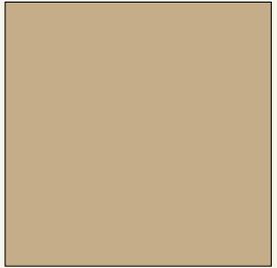
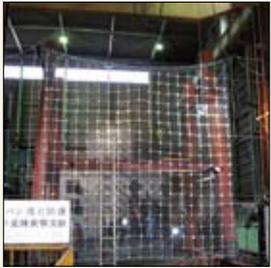
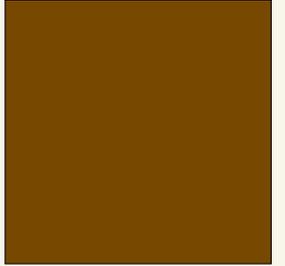
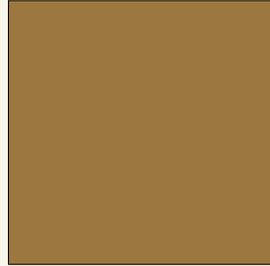
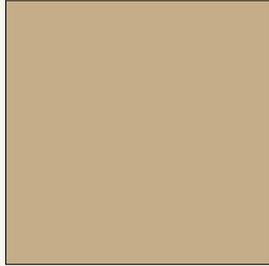
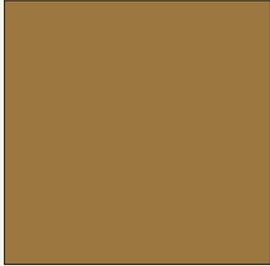
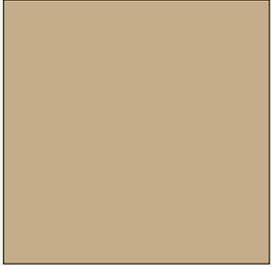




高エネルギー吸収型 落石防護工
スクリーンネット®



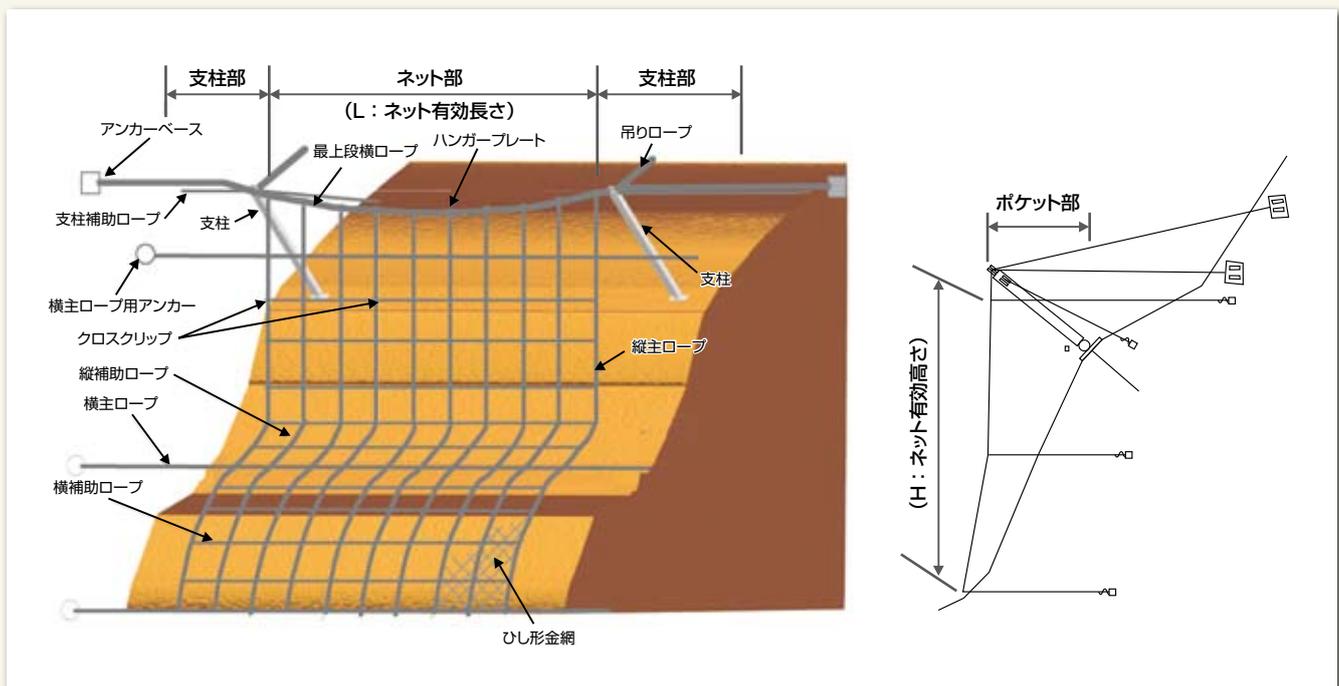
スクリーンネット®

(高エネルギー吸収型落石防護工)

スクリーンネット®は、従来のポケット式落石防護網を発展させ
高機能・高エネルギー吸収を可能にした対策工です。

「より高所からの落石」、また「斜面上の谷地形」での対策効果が期待できる商品です。

構造概要



●構成

支柱部

(吊りロープ、角形鋼管の支柱、支柱補助ロープ)

ネット部

(縦・横の格子状に配置したロープ、金網)

●支柱高さ(3.0m~8.0m)

現地の状況に合わせて、落石を受止めるポケット部を広く設けることが可能です。

●支柱間隔は最大30m

吊りロープ・最上段横ロープに高強度のロープを使用したことで、支柱間隔を最大30mまで対応可能。

●ネット部の耐衝撃性を向上

ネット部は、ロープを1.0m間隔と密に配置し落石の衝突に対し耐衝撃性を向上させています。

●支柱への負荷を軽減

最上段横ロープを支柱頭部のローラーで支持するため、支柱に偏荷重が作用しにくい構造です。

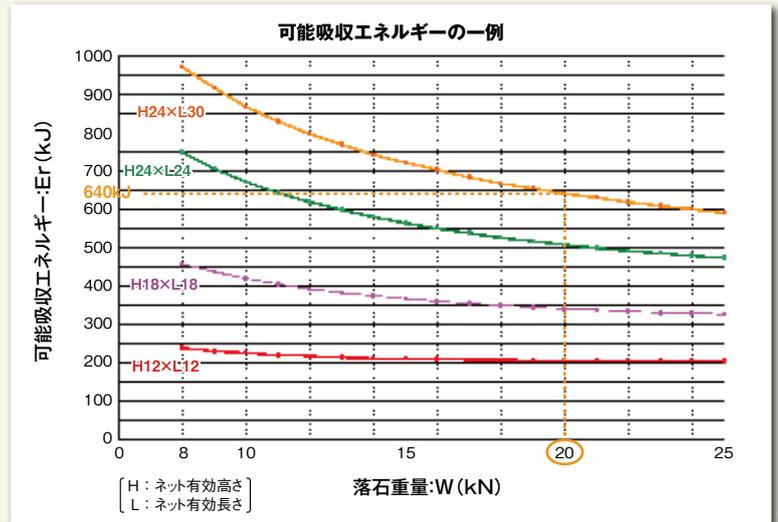
●材料仕様

部材名	仕様	主な規格
吊りロープ	6×24 φ36	JIS G 3525 破断荷重: 593 kN 以上
最上段横ロープ	6×24 φ36	JIS G 3525 破断荷重: 593 kN 以上
縦・横主ロープ	3×7 φ18	JIS G 3525 準拠 破断荷重: 157kN 以上
支柱補助ロープ	3×7 φ18	JIS G 3525 準拠 破断荷重: 157kN 以上
縦・横 補助ロープ	3×7 φ14	JIS G 3525 準拠 破断荷重: 109kN 以上
支柱	□200×200×6	JIS G 3466 (STKR 400)
支柱用ベースプレート	PL-25×270×400	JIS G 3101 (SS 400)
◇ アンカー	2-D32 (M30)×1200	JIS G 3112 (SD345)
アンカーベース	PL-22×350×350	JIS G 3101 (SS 400)
◇ アンカー	4-D32 (M30)×1200	JIS G 3112 (SD345)
横主ロープ用アンカー	D35 (M33)×1200	JIS G 3112 (SD345)
ひし形金網	φ5.0×50×50	JIS G 3552 (ひし形金網)
ターンバックル	W1- 1/2×419 (E & J)	アメリカ連邦規格 (FF-T-791b, タイプ 1-1) 準拠
ターンバックル (支柱補助ロープ用)	φ25(W1")×350 (E & J)	JIS G 3475 (STKN400W)
◇ 取付金具	U16×70×100-200	JIS G 3101 (SS 400)
クロスクリップ	PL-4.5×65×80	JIS G 3101 (SS 400)
ワイヤクリップ	F 形 33-38	JIS G 3101 (SS 400)
シンブル	A-36	JIS G 3101 (SS 400)
巻付けグリッパ	φ18×1300, φ14×1000	JIS G 3506「硬鋼線材」
ハンガープレート	2PL-12×150×240	JIS G 3101 (SS 400)
結合コイル	φ4.0×70 (100)×300	JIS G 3506「硬鋼線材」

■ 特 長

高いエネルギー吸収性能

- 支柱間隔を広げ、ネット部の自重を増大させることで高エネルギー吸収を可能にしました。
- 右記の表は、一例です。ネット有効長・有効高さ、落石重量により、可能吸収エネルギーは変化します。（右表以外のサイズについては、別途ご相談ください）



支柱は広間隔に設置可能

- 最大30mの範囲で、支柱位置を自由に設置できます。
- 不安定な地盤や落石の集中が懸念される谷地形などの危険個所を避け支柱を設置できることから、落石の直撃による支柱破損の可能性を低減できます。

ネット部と支柱部の接続方法に工夫

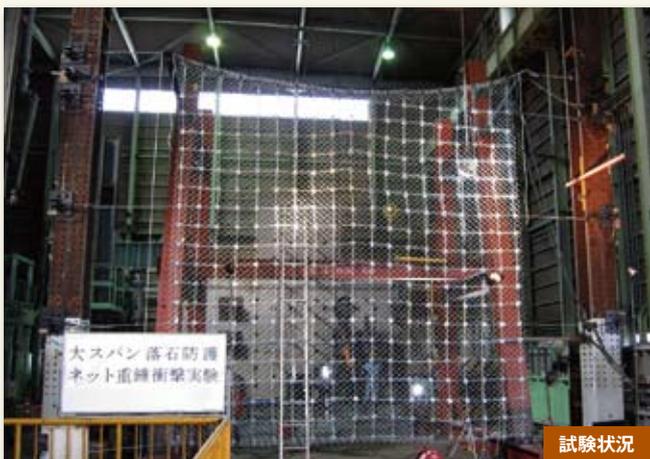
- ネット部を支柱頭部のローラーで支持し、落石衝突時に最上段横ロープに伝わる荷重をスムーズにアンカーまで伝達させる、支柱自体に偏荷重が作用しにくい安全な構造です。

落石に対する高い安全性

- 吊りロープ、最上段横ロープに高強度ロープの使用、ネット部の耐衝撃性向上対策、支柱部接続方法の工夫、支柱材料には万一の落石直撃に備えてへこみにくい閉断面の角形鋼管を使用するなど、落石の衝突に対する安全性を追求した構造です。また、重錘衝突実験を実施し構造の安全性を確認しました。

■ 安全性、設計妥当性の確認

・重錘衝突実験により構造の安全性を確認



落石の衝突荷重に対し、構造の安全性を確認しました。

実験では試験体に対し、落下高さ および 衝突位置を変え繰り返し試験をおこない、試験体を構成するいずれの部材に対しても、破断や構造に影響を与えるような変形は発生しない事を確認しました。

～より安全なご使用を願って～

本カタログに掲載されている内容は情報提供を目的としたもので、誤った使用または不適切な使用等によって生じた損害につきましては責任を負いかねますのでご了承ください。また、掲載されている情報・仕様につきましては、予告なしで変更する場合があります。最新情報については、各担当部署にお問い合わせ下さい。

スクリーンネット® 高エネルギー吸収型 落石防護工

JFE 建材 株式会社 <http://www.jfe-kenzai.co.jp/>

本 社 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-10-15 (JL 日本橋ビル)

防 災 商 品 営 業 部 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-10-15 (JL 日本橋ビル) TEL. 03 (5644) 5409 FAX. 03 (5644) 1234

北海道支店 〒060-0806 札幌市北区北 6 条西 1-4-2 (ファーストプラザビル) TEL. 011 (708) 6411 FAX. 011 (728) 4675

東 北 支 店 〒980-0811 仙台市青葉区一番町 4-1-25 (東二番丁スクエア) TEL. 022 (266) 3070 FAX. 022 (223) 3060

新 潟 支 店 〒950-0087 新潟市中央区東大通 1-2-23 (北陸ビル) TEL. 025 (246) 3233 FAX. 025 (246) 3255

北 関 東 支 店 〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町 2-44 (吉敷町スクエアビル) TEL. 048 (647) 6600 FAX. 048 (647) 6677

名 古 屋 支 店 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-7-19 (名古屋岡本ビル) TEL. 052 (204) 1600 FAX. 052 (204) 1611

北 陸 支 店 〒930-0004 富山市桜橋通り 2-25 (第一生命ビル) TEL. 076 (441) 1462 FAX. 076 (432) 2384

大 阪 支 店 〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-9-1 (肥後橋センタービル) TEL. 06 (6444) 7631 FAX. 06 (6444) 7633

中 国 支 店 〒730-0036 広島市中区袋町 4-21 (広島フコク生命ビル) TEL. 082 (248) 0231 FAX. 082 (248) 3141

四 国 支 店 〒760-0023 高松市寿町 1-3-2 (高松第一生命ビル) TEL. 087 (821) 5548 FAX. 087 (821) 5540

九 州 支 店 〒812-0025 福岡市博多区店屋町 1-35 (博多三井ビルディング 2 号館) TEL. 092 (263) 1561 FAX. 092 (263) 1475

北東北営業所 〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通 15-19 (盛岡フコク生命ビル) TEL. 019 (629) 2250 FAX. 019 (651) 8780

長 野 営 業 所 〒380-0901 長野市居町 5 (勝山ビル) TEL. 026 (259) 3739 FAX. 026 (244) 2586

静 岡 営 業 所 〒420-0851 静岡市葵区黒金町 11-7 (三井生命静岡駅前ビル) TEL. 054 (653) 6511 FAX. 054 (273) 3701

鹿 児 島 営 業 所 〒892-0847 鹿児島市西千石町 1-32 (鹿児島西千石町ビル) TEL. 099 (222) 1225 FAX. 099 (222) 1257

